

◇質疑応答（概要，概ね質問順）

記者：令和3年度の予算（案）について，重視した点，改めて意識した点があれば教えてください。

村長：新型コロナウイルス感染症対策は最優先で行う。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に関しては，情報が入ったのが遅かったため，当初予算には入っていないが，4月以降に補正で対応することになる。事前の準備については，今年度の補正予算で実施している。若干反映していない部分はあるが，それ以外の事業者支援などについては，最優先としたい。まるデジ構想推進事業だけはどのようなことがあってもやりたい。また，歴史と未来の交流館が完成するので，しっかりと運営していく。新規事業を多くしなかったのは，コロナ対応が今後どのようになるのかわからない。なるべく予算と人を新しい事業に充てたくなかった。今年度もやろうとしたものがあつたが，結局コロナ対応で何もできなかった。予算だけではなく，人も大事になってくる。いろいろな事業が新たに始まると，人がついてしまうので，継続事業でやっていき，何かあれば流動できるようにする。ワクチン関係では職員2名を異動させてチームを作った。来年度以降もこの対応がもっと増えるかもしれない。事業で人を張り付けてしまうと動かせなくなってしまう。あまり新しいものに注力せずに，今あるものをしっかりやって，コロナ対応の時には臨時的に人が割けるようにするため，あまり欲張らずに全体的に抑え目の予算にしている。

記者：自分ごと化会議について，資料に話題提供「東海第二発電所の今とこれから～メリットとデメリット～」とあるが，これは具体的にはどういうことか。

村長：これは構想日本の考え方による。第1回目の会議では，東海第二発電所の廃止処理の状況や財政的なメリットの話も出た。それだけでは一部の話だけになってしまうので，多様な見方や考え方が反映できるようなテーマ設定になっている。財政的な面だけではなく，それに合った形の講師を選定したいのだろう。講師についてはまだ協議中である。

記者：これがデメリット・メリットというものを提示しようとするものではないのか。

村長：そういうものではない。

記者：3月18日に予定されている，東海第二発電所の差し止め提訴の判決で，村で注目しているのは何か。

村長：全国で裁判が行われているが，特に東海第二発電所に関係するものについては関心を持っている。

記者：自分ごと化会議の第2回目は2月中に予定をしていたと思うが，3月末に延期になったのは，コロナの影響によるものか。

村長：それもあるが，構想日本との調整でずれ込んだ。当初は2月中旬でできそうかと思っていたが，伊藤氏は多忙な方なので，日程調整がつかずに3月末に遅れてしまった。

記者：第1回目の会議で、原子力機構の職員の代理出席があった。開催前から公平性の担保の声があった中、今回、無作為抽出がなされていない人が出席されていたことについて疑問の声もあがったが、村長としてどのように受け止めているのか。

村長：構想日本でも無作為抽出が自分ごと化会議の売りであったため、それに沿わなかったことについては重大に受け止めている。結果的に、当初予定していた方に出てもらうことで修正はできたが、その過程の中でもう少し詰めるべきだったと思う。家族というのを考えてしまったのかと思うが、原則があるので、家族であっても厳密にすべきだったと思う。

記者：村長に代理出席するという話はあったのか。

村長：そういう希望があって、調整をしているという報告は受けていた。最終的には構想日本のやり方の問題になるのだろうが、最後の結果までは聞いていなかった。

記者：防災原子力安全課から報告を受けているということか。

村長：担当課から報告を受けている。

記者：3月11日に村内の経済界の「東海これからプロジェクト」が立ち上がる話があるが、村民からこうした動きがあることに対してどのように捉えているのか。

村長：これについては、初めてのことでなく、自分が村長になった時に似たような組織はできている。2～3回の話をしたがその後自然消滅している。当時の人や若い人がこれからの東海村のことを考えてくれて行動する住民がいるということありがたいし、注目したい。

記者：最終的には提言をまとめたいという話であるが、提言を受けることについて、村政に生かしたいという考えはあるのか。

村長：今後どのような話し合いをするかわからないが、住民から沸き起こった動きなので、率直に受け止めたい。

記者：「まるデジ構想」で職員の働き方改革という話だが、どういった問題あるか。

村長：私の個人的な感想だが、村職員は非常に真面目である。仕事の進め方が細かく、規定に基づいてきっちりやっている。間違えのない仕事ではあるが、手続きが多いと感じている。もう少し簡略できるものはあると思う。根拠を踏まえて仕事をするタイプなので、フレキシブルに動く時はそこにこだわることなく、やれることはやればよいと思う。仕事の進め方の意識を変えるところから始める必要がある。そのひとつにペーパレス化がある。資料を作成して、それを説明する習慣がある。今年度後半からは私への資料はパソコン上のやり取りにしている。それでも半分程度に留まっている。政策会議や庁議に関してはパソコンを持ち込み、ペーパレスにしている。今後はもっと進めていきたい。単に紙をPDFにするだけでは意味がなく、そもそもの仕事のやり方を変える必要がある。単純なペーパレス化では仕事は減らない。仕事を減らすことを考えてやってもらいたい。

記者：RPAはどういったことに使われているのか。

村長：RPAは税務課で使用している。詳しくは税務課に聞いてほしい。業務時間数も削減され、効果は大きいと聞いている。

記者：新型コロナウイルスワクチン接種について、準備を進めていると思うが、国が定める期日からスタートできるのか見通しも含めてお聞きしたい。

村長：現在準備を進めている。対象者の抽出は村でできる。村では村内のクリニックに協力をいただき、個別接種をすることで話を進めている。ワクチンがいつ入ってくるかで接種できるタイミングが決まる。開業医は通常診療をやりながらワクチン接種を行うことになる。限られたワクチンを無駄なく接種するには、予約の関係等細かい部分の調整が出てくると思われる。現場での対応に基づく医師の要望は聞きたいと思っている。そもそもどのような感じでワクチンが入ってくるのかも見えない。ここ数日の報道を見ても、遅れている状況である。1回目の接種から3週間後の2回目接種の徹底は難しいと感じている。課題はいくらでも出てくる。とりあえず、今のところやれるのは、医療機関の協力をもらい、接種スケジュールが組めるところまではやっていきたいと思っている。

記者：東海第二発電所の6市村の首長懇談会で、原発の視察や協議会の開催の話があったかと思うが、それ以降の動きがあれば教えてほしい。

村長：当初は2月に現地視察をしたいと日程調整していたが、茨城県独自の緊急事態宣言が出たので結局できなくなった。緊急事態宣言は解除されたが、3月は議会が始まるので年度内は厳しいと思う。当初は2月で調整していたので、各首長も議会が終われば対応できると思うが、新年度にずれ込むかもしれない。

以 上